

# 令和4年度 学校評価

■ そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思わない   
 ■ そう思わない   
 ■ わからない

## ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

**考察**

1) 昨年度に比べ生徒と教職員の「そう思う」の割合が大幅に減少している。まずは、教職員間において見通しを持った生徒指導と情報共有・共通実践を徹底する必要がある。また、対話を重視した教育活動の充実と学級通信や家庭連絡等を通じた保護者連携に努める必要がある。2) 昨年度に比べ保護者の肯定的回答の割合が1割程度減少している。「分からない」の回答もあることから通信やHPを活用した道徳授業の発信や親子道徳の日の充実・改善を図りたい。

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

**考察**

3) 教職員と生徒は、9割程度肯定的に捉えているが、保護者は7割程度であった。また、昨年度よりも全体的に肯定的な回答の割合が低くなっているため、教職員の授業力向上に努め、生徒への個別最適な学びを実現し、生徒の学力を数値的に向上させることも必要である。4) タブレット端末の活用については、生徒は肯定的な回答の割合が高く、活用できているようである。保護者も肯定的な回答の割合は高いが、約2割が否定的な回答となっており、生徒の活用内容やそれに伴う活用量の観点からそのような回答になったと考えられる。学校で情報モラル教育を進め、適切な使用ができるように指導していく必要があると考えられる。

## ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。

**考察**

5) 「支援を必要とする子どもの教育」について、学校では昨年同様肯定的な回答が多いが、保護者の回答では肯定的な割合が減少している。このことから、学校での支援体制について保護者との情報共有や丁寧な対応を図っていく必要があると考える。6) 「交流及び共同学習」等での生徒の相互理解については、保護者と生徒共に昨年よりも評価が下がり「分からない」の割合が増加している。今後、見通しを持った交流における学びの場の設定やインクルーシブ教育の充実が必要である。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
考察 7)安全や事故防止について、生徒と保護者に「分からない」という回答が見られ、学校の取り組みが十分伝わっていないことが分かった。また、少数であるが、生徒の「そう思わない」という回答からも学校の取り組みやその意図を丁寧に説明する必要がある。 8)家庭や地域との連携協力に関しては、7と同様の傾向にあるが、保護者の否定的な回答が2割ほどあることから、保護者のニーズをしっかりと受け止め、思いに寄り添いながら学校の教育活動の情報発信に更に努めていく必要がある。	

④ 本校の教育

9 学校教育目標の実現	10 小中一貫教育の充実
学校は、子どもに「寄り添い」、子どもを「育み」、子どもが自らの進路を「切り拓く」ための指導を行っていると思いますか。	学校は、校区内小学校と連携をとり、効果的な小中一貫教育の推進に努めていますか。
考察 9)生徒や教職員は9割以上が肯定的に捉えているが、保護者の15%が否定的であった。今後、更に保護者や生徒のニーズに応じた対応と、生徒の主体性を育むため保護者との連携を図り組織的な体制づくりが必要である。 10)教職員の意識に対して保護者の意識が低く「分からない」が2割以上であった。今後、小中連携の日を軸に情報モラルを含めた生徒指導の共有、中1ギャップの解消に向けた中学校教員の小学校への乗り入れ授業、災害に備えた引き渡しカードの共通化と訓練などを通して連携推進を図る。また、学校だより等を通じ保護者への情報発信に努める必要がある。	

## 来年度の具体的な取組について

- コロナ禍の影響もあり、それぞれの回答に「分からない」の割合が増えてきている。次年度も、学級通信やPTA新聞などあらゆる機会を通して情報発信を行うとともに、地域や保護者について、できる限り学校へ足を運んでいただけるような機会を設けつつ、ICT等を有効活用した取り組みにより地域や保護者に開かれた学校づくりを目指す。
- 道徳教育の充実のため、道徳授業の校内研修や授業研究会において講師を招聘した校内研修で実施し、職員一人一人が成果を実感できるような学びの場を創造する。
- 生徒が学びとる授業実現のために、学習指導要領の目指す「主体的、対話的で深い学び」のある授業研究を研究部が中心となって行い、教師の授業力向上を目指す。
- 熊本市学力調査の結果を受けて、生徒の学力を詳細に分析し、ドリルパーク等のICTを活用した学びの個別化を推進し、個別最適な学びの実現を図る。
- 多様性を認め合える教育を推進するため、特別活動における授業実践と保護者への授業公開等を行い、保護者との連携を図った取り組みを行う。
- 「人権教育」「算数・数学」「総合的な学習」を要とした小中一貫型教育の充実のため、乗り入れ授業や災害に備えた共通の訓練実施を行い、保護者や地域から信頼され地域に根ざした教育を充実させる。
- 学校現場で「働き方改革」が求められている意味について、教職員だけでなく、家庭や地域とも共有し、持続可能な学校を作り上げていく。

## 学校関係者評価

- 学校運営に対する評価は、「そう思う」「どちらかというと思う」が8割以上であれば十分である。学校の「働き方改革」を推進するためには、必要な業務とそうでない業務を明確にしていく必要がある。
- ICTの活用は、特色を活かした活用を行う必要がある。例えば「子ども同士の対話が深まっているか」などの検証もしていく必要があるのではないかと考える。
- 性の多様性を認め合う学習に向けては、小中での合同の研修会を行うなどとても良い取り組みがなされている。また、2、3月に全学年において授業実践を行うように計画されており、継続した取り組みとしてほしい。
- 3年生の総合学習でSDG sの取り組みが行われているので、今後も取り組みを継続し広げてほしい。
- 地域との連携協力がしっかりと行われている。今後は、更に、保護者も地域とともに協力・連携していくことで三者の関係性がより強まっていくと考える。